

# 共翔

第26号



● ..... 目次 ..... ●

【巻頭言】「活字好きです」森安秀之……………2

【研究ノート】「トナカイのカウンター係」川崎剛志……………4

【図書館活動報告】……………6

【図書館セミナー実施報告】……………8

【学生協働】

・シンポジウム参加報告……………9

・図書館サポーター自主企画報告……………10

・卒業する図書館サポーターからのエール……………12

・ブックハンティング報告……………14

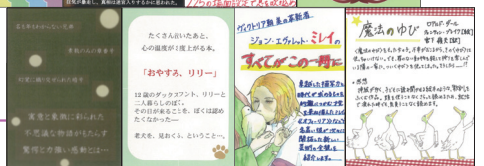
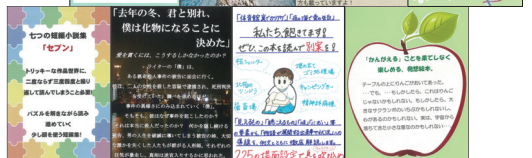
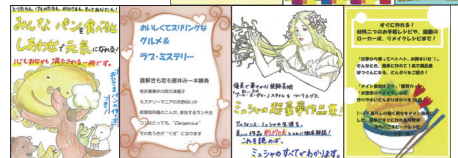
【ブックガイド】……………15

【ユーザーズガイド】

・新しいホームページについて……………17

・文庫の探し方……………19

【利用者へのメッセージ】……………20



“学生が作成した図書を紹介(ポップ)です。”  
“図書も学生が書店で選びました。”

巻頭言

活字好きです

就実短期大学 短期大学部長

森安 秀之



私はもともと多少本を読むのが好きな程度の子供で、非常に本が好きというわけではありませんでした。その後もまあまあ読む程度でした。しかし、今は本や論文の活字がそばにないと落ち着かないというほど活字好きです。

なぜこうなったのかはわかりませんが、要因はおそらく他の多くの方々と同じで、色々な文章を読むと「ほほー」と思ったり、「やられた」と思ったり、素朴に自分が思いつかないことを教えてもらえるのが楽しいという経験を積み重ねてきたことが一番大きいのではないかと思います。時間が空くと何か読んでいるというのが当たり前になりました。

現在私が先行研究を読むときのスタイルは、大学生の時の授業の中で固まったものです。よくあった普通の英語の授業と同じように、英語の

論文やテキストを読んで指名された学生が日本語で説明をしていきます。ただ、その授業の中で先生が繰り返し言われていたのは、「逐一日本語に訳すのではなく、この人はこの段落で何が言いたいのかを説明してください」ということでした。もともと私は全部訳すのを面倒に思っていたので、この作業が現在まで続く習慣となり、段落ごとに内容をまとめながら読む癖がついています。逆に、細かいことに注意が行き届いていないかなとも思います。それでも基本的には新しいことを知るのを楽しんでいるということが根底にあるのは変わりません。

趣味で本を読む時にはまとめたりするようなことは普通しませんが、何か新しいことをという気持ちが強いので、同じ本を繰り返し何度も読むというのはそれほど多くありませ

ん。一つ読み終わると別のもの、さらに別のものと続くので、書評や広告なども含め気になったものをリストにして、次にさがす本の候補が何冊もある状態にしています。

趣味でも英語で書かれたものを読むことが多く、学生の方々にも、元々英語のものは辞書を引ながら読めるなら英語で読んだ方がいいよとすすめています。英語教員が「英語で読みましょう」というと何か勉強がらみの難しい理由があると思われるかもしれませんが、私の場合、理由は単純です。

20数年前に何冊か英語のペーパーバックを買ったのですが、そのまま10年以上本棚の中に置いて忘れ去っていました。たまたま思い出してその中の1冊を読んでみたら非常に面白くて「やられた、そうきたか」の連続に驚かされました。その本は出版から年数がたっているので続編があるかもしれないと思い、ネットで検索するとありました。最終的には番外編を含め10数冊でシリーズ完結となるものでした。というのが「英語で読もうかな」と思ってしまう状況のひとつです。

英語で読んだらの理由の一つ、それはいつでもどこまで訳してくれるのだろう、という不安の解消です。海外で話題になった書籍は日本語訳が出ることもあります。ただ、シリーズものになると、時間差もありますし全部日本語に訳してくれるのだろうかという不安もでてきます。私が見つけたシリーズの場合英語版は少なくとも完結しているので、読みたいと思ったときに全部手にすること自体は可能です。読む読まないは自分

で選択することができます。

英語で読んだらのもう一つの理由、それはお金の問題です。ペーパーバックの中にはとてつもなく分厚いものもあります。英語の書籍を日本語に訳すと、もとは一冊なのに数冊に分冊される場合もあります。文庫本のようなものであっても、何冊にもなると当然日本語版の方が値段がかなり高くなることがあります。ものにもよりますが、手元に持っておきたいというのであればペーパーバックの方が安く手に入る可能性が高いでしょう。もちろん、読んでみたいが自分で持っておく必要はないという方は、図書館などを上手に利用すればお金の問題は関係なくなります。

ついでに新しい英単語をいくつか覚えられるというメリットもあるかもしれませんが、これはあくまでおまけと思っています。英語で読んでいるとき私にとって大切なのは「何が書いてあるの？」の答えです。

最近はPDFや電子書籍の選択肢も増え、アナログな私も、普通の本以外に電子書籍リーダーも利用しています。新幹線などでの長時間の移動の時や長期休業中にはたくさんの資料を簡単に持ち運びできるのでとても便利です。形が電子書籍リーダーになると特別なことをしているようですが、基本的には紙の本やコピーを利用しているのと同じ感覚です。私の場合、「どんな新しいことを教えてくれるの？」という単なる活字好きであるという点は、どんな形になっても変わらないのかなと思っています。



## トナカイの カウンター係

川崎 剛志

ボストンの市街地の北をチャールズ川が西から東に蛇行しながら流れている。対岸はケンブリッジという別の都市だ。

2018年の秋学期、私はケンブリッジにあるハーバード大学のエドウィン・O・ライシャワー日本研究所で客員研究員をつとめた。同研究所は、米国を代表する日本研究とその学术交流の拠点である。研究対象は政治、経済、社会、文化など幅広く、例えば2011年の東日本大震災に関するデータや報告を集約する日本災害DIGITALアーカイブ事業も進められている。

客員研究員としての私の活動を粗々述べると、「役行者の偶像：修験道の祖師、そして密教の受法者として」という課題研究を進めると同時に、毎週火曜日、指導教授の大学院のゼミに出席して日本語の寺社縁起の研究論文を講読し、金曜日にはホスト・スチューデントとふたりで英文の研究書を講読した。そのサイクルに慣れ始めたところで、10月下旬、日本のシンポジウム、11月中旬、ハーバード大学のワークショップ、12月初旬、コロンビア大学仏教研究セミナーのトークと発表が続き、12月中旬、あわただしく帰国した。スケジュール管理に難があったが、そこをなんとか乗り切れたのは、図書館を中心に学びの環境が整っていたからだ。

ハーバード大学のキャンパスには

数十の図書館が点在している。その中心は、ハーバードヤードにあり、観光名所でもあるワイドナー図書館だ。タイタニック号沈没の犠牲者のひとり、ハリー・エルキンズ・ワイドナーを偲んで、彼の母親が贈った寄付金により建設されたことは、ガイドブックにも載るほど有名で、入口のゲートを抜けて階段を上ると正面に彼の書斎を模した部屋がある。そこから少し引き返し、反対方向に階段を上ったところにメインの閲覧室がある。半円形の高い天井が続き、重厚な机の上に、傘のついたクラシックな灯りが並ぶ。IDがないと入れない代わりに、管理はゆるく、蓋つきの飲み物の持ち込みは自由で、フラッシュなしの撮影も許されている。だが、不快に感じたことはほとんどなかった。常識にしたがい、節度をわきまえているからだ。ID所持者は家族や友人を招き入れることができるので、見学者がひっきりなしに訪れたが、それも、おたがいさま、といった雰囲気です容された。試験期間になると、学生はほぼ例外なく、





パソコンと分厚いロゴ入りのノート、それから水筒を机の上に無造作に置き、思い思いの姿勢でレポートを作成していた。お世辞にも行儀がよいとは言えない。

クラシックな閲覧室の構えと、ゆるい心地よさにひかれてふだんはこの図書館を利用したが、日本の文学や文化について調べるときは、東アジア言語文化学部と同じ棟にあるイエンチン図書館を利用した。入口のゲートの目の前にカウンターがあり、正面に進むと閲覧室に、右に折れて奥に進むと四階建ての開架式の書庫に通じる。蔵書形成の過程を反映して、同系の書籍が別の階に配架されていることもあるので、はじめは意地の悪いからくり屋敷かと疑った。日本関係の図書は充実しており、専門の日本文学科をもつ日本の大学の図書館と比べても遜色ない。さらに、大学図書館のHPにログインすると、全館の蔵書の予約が可能で、ジャパン・ナレッジなど種々のコンテンツも利用できた。

ワイドナー図書館では、表に見える司書の仕事は主にレファレンス業務で、出入館の管理と図書の貸出は別の事務員が担当していた。イエンチン図書館も同様だが、カウンターはほとんど学生アルバイトが担当していた。12月になると、学生アルバイトのひとりがトナカイの角の被り物を始めた。帰り際、私のかばんの中身を確認すると、愛嬌のある角



をつけた彼女が、「楽しい夜を」とか、「よい週末を」とか言ってほほ笑んだ。「あなたもね」と、私はごちなく返す。それからずっと、彼女はトナカイのままカウンターの向こう側に座り、淡々と業務をこなした。トナカイは消えることも、増殖することもなかった。トナカイを御すサンタクロースが現れることもなかった。

大学のキャンパスは、中庭も、喫茶室も、すべて学びの場であり、その中心に図書館がある。その常識を共有できれば、あとは節度に任せればよい。近年、日本では、大学のキャンパスや図書館に、こむずかしい横文字の施設を設けるのが流行っている。ひとりで学ぶ、5人で学ぶ、15人で学ぶ。周りを見わたして適切に行動できれば、空間は自在にその機能を変えていくのだが、そうした行動をとる習慣や文化が未熟だから、わざわざ区切りを設けて、学習行動パターン別の空間を準備する必要がある。上述の行動の習慣や文化が成熟するまでの過渡的措置と考えれば、横文字の施設も悪くないのだが、それを先進的だと思いこむのは、ちょっと。

学びと日常とは一続き。だから、ふだん着のままでもよいことは、ふだん着で済ませたほうがよい。トナカイの角の被り物は、彼女にとって十二月のふだん着だったから、誰からもとがめられることなく、また誰が真似することもなかった。学びの場がそうになると、居心地いいだろうな、と思う。でも、化けの皮がすぐはがれちゃうかも、と思ったりもする。

# 図書館活動報告



新入生対象図書館ガイダンス  
(学生協働)  
ゼミ生対象図書館利用案内  
(～6月)  
リユース本譲渡会  
企画展示「クラブ・サークル紹介」



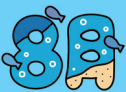
JPLA 近畿・中四国・  
九州地区協議会  
総会・講演会



ブックハンティング  
(学生協働)  
→学生体験記 p.14



企画「図書館で願い事(七夕)」  
読書会(学生協働)  
スペシャル講座  
「ざっさくプラス講習会」  
早朝開館



マナーアップ月間  
JPLA 研究集会

平成30年度日本薬学図書館協議会研究集会  
「知の拠点としての図書館：今求められているもの」

平成30年8月23日(木) 13:00～17:30  
平成30年8月24日(金) 9:30～15:15

主催：日本薬学図書館協議会  
協理：特定非営利活動法人 日本医学図書館協会  
担当：就実大学図書館(近畿・中四国・九州地区協議会)

日本薬学図書館協議会研究集会 会場：就実大学



企画展示「先生ご活躍図書」  
図書館システム LIMEDIO クラウド版へ移行  
「大学図書館学生協働交流  
シンポジウムに参加」

(学生協働) → 報告 p.9

# 図書館活動報告



企画展示  
「マナーアップ月間アンケート結果報告」  
ゼミ生対象図書館利用案内  
中学生職場体験受入（～11月）



図書館セミナー特集→報告 p.8  
絵本の読み聞かせ（学生協働）  
→学生体験記 p.10-11

企画展示「学術講演会特集」  
スペシャル講座「エルゼビア社による国際  
ジャーナル論文執筆セミナー」  
弦楽アンサンブル部による図書館演奏会  
写真部による図書館写真展



図書館グッズ作成 →学生体験記  
p.10-11

スペシャル講座「絵本翻訳の世界」  
（講師：武部好子先生）

スペシャル講座  
「時間の種子、物語の種子——シンガーと  
ベンヤミンにみる歴史と物語の交差点」  
（講師：松本潤一郎先生）

リアル謎解きゲーム  
「図書館推理遊戯」（学生協働）  
→学生体験記 p.10-11  
インターンシップ生受入



芸術文化科  
**松本潤一郎先生**  
図書館スペシャル講座  
「時間の種子、物語の種子——  
シンガーとベンヤミンにみる歴史と  
物語の交差点」  
日時:12月28日(金)  
13:10～14:10(60分)  
場所:図書館3F スタディールーム  
申込方法:図書館3Fカウンターへ  
直接来ていただくか、こちらにメールを  
お送りください

さあ、知恵比べといこうか  
**図書館推理遊戯**  
12.17 MON.～12.18 TUE.  
12月17日(月)～18日(火) 18時～20時  
12月17日(月)～18日(火) 18時～20時  
12月17日(月)～18日(火) 18時～20時



マナーアップ月間  
早朝開館  
福袋企画  
一般雑誌譲渡会  
企画展示「心の癒しになる本」  
読書会（学生協働）

図書館 マナーUP 月間実施中  
読書会  
読書期間がながくなりました。  
レポート、テストや勉強の励みになりますか？  
読書会ではおもしろい本をおすすめする本を企画しました！  
読書になったおもしろい本もあるも！？  
ぜひ、手に取ってみてください！



**福袋** あいませ  
図書館サポーターがテーマに  
あった本を2冊選びました。  
読んでみてね。  
図書館2階カウンター前に置いてあります

2月  
図書館上映会  
「カルロス・ゴーン  
日産自動車」





## 第9回 図書館セミナー実施報告



11月24日(土)、本学図書館5階にて「第9回図書館セミナー」が開催されました。今回講師をしていただいたのは、本学非常勤講師の伊丹弥生先生です。

先生は「文庫えびみなんだす」で月に3回、文庫(絵本やお話を親子で楽しんでもらうことを目的に、わらべうた、絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、折り紙、工作他、季節を楽しむ行事など)の活動をされていて、依頼に応じて出前文庫、出前講座に出かけています。



今回は「絵本を楽しむ 赤ちゃんから大人まで」というテーマのもと、絵本の世界を楽しみました。

伊丹先生の素晴らしい講演はもちろん、本学図書館サポーターによる絵本の読み聞かせグループにも多大な協力をしてもらい、図書館セミナーは成功を取ることができました。

図書館セミナー開催にあたり、講演の内容に沿った特別展示を企画し、学生・職員と協力して用意しました。学生には、カラフルなPOPをたくさん作っていただきました。また、図書館サポーターだけでなく、一般の学生にもおす



め絵本のPOPを作成してもらい、子供の頃の懐かしい思い出や実習での子供たちとの思い出とともに、絵本を通して振り返りきっかけになったのではと思います。

図書館セミナー当日、30名の熱心な参加者に恵まれ、13時から始まった伊丹先生の講演は実際に絵本の読み聞かせを行いながら、時には参加者とのやりとりを交えて、読み聞かせのポイント、絵本を通しての子どもとの関わり方についてお話しいただきました。



伊丹先生の講演後は、1階ブラウジングルームへ移動し、「学生のための読み聞かせ講座」と題した講座で図書館サポーターの読み聞かせグループの5名の学生がそれぞれ年齢別に選んだ絵本で読み聞かせを行いました。読み聞かせに入る前に、クイズやなぞなぞ、手遊び等を行い、緊張をほぐすような雰囲気づくりを行いました。参加者の方の前での読み聞かせということで学生たちに少し緊張が見られましたが、伊丹先生の講演で学んだ絵本の持ち方、ページのめくり方を実践しながら、読み聞かせを行いました。全員の読み聞かせの終了後には伊丹先生から1人1人にコメントやアドバイスを頂きました。参加者の方からも、感想やアドバイスをいただき、学生にとってとても有意義な時間になったことと感じます。今後も就業ことも園での読み聞かせも予定しており、学生たちには今回の図書館セミナーで学んだことを活かして、子どもたちと一緒に学生自身にも絵本を楽しんでほしいと思います。

その後、図書館職員の案内で、参加者の方々には図書館を見学していただきました。

その後、図書館職員の案内で、参加者の方々には図書館を見学していただきました。



# シンポジウム参加報告



## 第8回 大学図書館学生協働交流シンポジウム

2018.9.6(水)~7(木)  
広島大学 東広島キャンパス

### 学生と共に成長する図書館 —協働が生み出す新しい魅力—

2018年9月6日・7日の2日間、広島大学で「大学図書館学生協働交流シンポジウム」が開催されました。本学からは図書館職員1名が参加しました。全国各地から40大学、そして190人近くの参加者があり、多くの学生・教職員と学生協働の悩みについて語り合い、親交を深めました。以下は図書館職員の体験報告です。ご覧ください！



**1日目：9月6日(水) 13:00 開会・挨拶**

#### 13:10 基調講演 広島文教女子大学 庄ゆかり 准教授

広島文教女子大学では、もともと教員・図書館員が共同で実施していた「図書館ガイダンス」を2017年度より3年生が新1年生に対して実施することになりました。教職員が先輩学生に指導し、先輩学生が後輩学生に指導するという流れの中で、学生の学びの中に起きた変化について、また教員・職員と学生それぞれの役割や工夫、成果などについてお話をいただきました。

#### 14:30 事例発表

3つのテーマで事例発表が行われました。

A.学生協働の始まりから継続まで B.学生が行う図書館業務・サービス

C.学生が企画or実施したイベントなど3部屋に分かれており、《発表15分+質疑応答5分》のタイムスケジュールで自分の興味のある大学の発表を選んで聞くというものでした。

#### 15:40 ポスターセッション「活動報告」

図書館サポーターが事前に作成したポスターが会場に掲示され、その前で本学図書館サポーターの活動について、説明しました。それぞれの自主企画について、「自由な企画が素敵」「うちの大学もやってみたい!」「フットワークの軽さを感じる楽しそうな企画ですね」「謎解きゲーム解きたい!」とお言葉をいただきました。リレー小説と図書館ゲームについて質問が多く寄せられました!

リレー小説と図書館  
ゲームに質問が  
殺到しました!



他大学の学生から本学サポーターの活動について質問を受けた際、自分たちの活動の中で、「楽しんで終わり」ではなく、それぞれ問題意識・向上心を持って活動に取り組んでいるのだなと感じました。



**17:30-19:00 交流会** テーブルに分かれ、学生・職員と交流を深めました。

**2日目：9月7日(木)**

#### 09:10 ワークショップ「みんなで考えよう!—活動の悩み・企画提案—」

1グループあたり7~8人に分かれ、①協働に関する活動の不安や悩みの解決方法 ②新しい企画・イベント等 について話し合い、その後全体発表を行いました。

学生の企画では各グループから個性豊かな企画案が出されました!

私が参加したグループの職員が抱える学生協働の悩みでは、学内での学生協働の認知度の低さ、職員の活動へのかかわり方等について意見交換をしました。



**11:50 閉会**

**12:30 広島大学中央図書館見学**



#### 図書館より

自分たちの活動について自信を持ち堂々と発表する姿、他大学との交流では積極的に意見を出し合い、自分たちの活動について問題意識を持って取り組む姿に、刺激を受けました。

本学の図書館サポーターも今年で四年目を迎え、昨年度からは学生の「やりたい!」を叶える自主企画に力を入れています。

その自主企画では、図書館サポーターだけでなく学内の学生を巻き込んで楽しめるようなイベントもありますので、ぜひ皆さんもご参加ください!





## 図書館ゲーム

総合歴史学科 大野 湧葉

2016年、2017年に引き続き、2018年も図書館ゲームを開催しました。

今回も前年度同様、図書館サポーターの有志の方々を中心に図書館の職員さんにも手伝って頂きながら製作しました。

今回の企画に至っては、前回の図書館ゲームでの欠点を克服しつつ、けれども、何か新しい要素も加えつつという難題を抱える状況でした。それでも私達は先輩・後輩の関係に囚われず、様々な意見を交換しあった結果、「2ルートの作成」という答えに辿り着きました。

「1度クリアした人でも、もう一度楽しめる図書館ゲームにする」をモットーに企画が始動した訳ですが、様々な壁にぶつかりました。



①過去2回の図書館ゲームに2ルート作成した前例がなかった事。

②2ルート作成するにあたって、作り上げる問題数が今までの倍になる。および、難易度の順序を注意しなければならない事。

③1巡目、2巡目でクリアした人へ手渡す景品をどのようにするか。以上の3点に悩まされる事態になったのです。

しかし、試行錯誤の上、図書館サポーターの図書館グッズ作成班の方と連携して、素敵な巾着を景品としてプレゼントすることが出来ました。過去の先例がなくとも、今回の企画は完成しました。

次回はもっと参加者の満足度を上げるように企画を練ります。皆様、是非とも参加してみてくださいね。

## リレー小説

総合歴史学科 近藤 吉純

リレー小説とは、複数の執筆者によって順番に書き綴られた小説のことです。2017年に発足した企画で、今年度は昨年度に引き続き「ヒューマンドラマ」と「ミステリー」を題材にした作品の完成を目指し、執筆にあたりました。ここで両グループの小説の内容について簡単に紹介したいと思います。

「ヒューマンドラマ」の主人公は喫茶店でアルバイトをする大学生です。買い出しの最中、誤って林檎の入った木箱を落としてしまいます。そこに偶然通りがかった高校生が、転がった林檎を拾い、主人公の代わりに木箱を店まで運んでくれます。主人公がお礼に喫茶店でもてなすと、高校生はあることを打ち明け始めます。

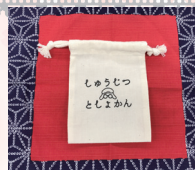
「ミステリー」の主人公はミステリーサークルに所属する男子大学生です。彼は幼馴染でサークル仲間の女子学生に連れられ、顧問の先生と三人で、幽霊が出る噂の山奥の廃館に向かいます。しかしその途中でミステリー雑誌の取材班を名乗る奇妙な四人組に出会い、不可解な事象に巻き込まれていきます。

参加メンバーの所属学科や学年の違いから完成までに長い時間を要してしまいましたが、両グループの小説とも無事に完結したことを嬉しく思います。学生たちによって紡がれた二つの物語が、創作や読書活動の面白さを伝える機会となることを願っています。

## 図書館グッズ

表現文化学科 安宅 星夏

私たちグッズ作成班は今年度発足し、図書館のオリジナルグッズを企画・作成させていただいております。今年度は図書館ゲームの景品として配布するミニ巾着袋を作らせていただきました。制作物の種類や配布方法を班員と話し合い、その後図書館の職員さん方とも打ち合わせを行いながら形にしていきました。学生の皆さまが普段使いしやすく、かつ図書館のアピールにもなるグッズを目指し、ライブくんモチーフのイラストが入ったデザインに決定しました。印刷は業者さまにお願いし、私たちの考えたものが形になって手元に届いた時はとても感動しました。オリジナルグッズをきっかけに、図書館に足を運んでくれる人が更に増えてくれると幸いです。



## 図書館サポーター自主企画報告



### 読書会

総合歴史学科 濱崎 和洋

読書会は、毎回事前に決めておいたテーマに沿ってメンバーに本をプレゼンする企画です。プレゼンの方法はホワイトボードやフリップなどを、各自が自由に使用して行っています。プレゼンの前には小企画を短時間行うこともあります。お互いの緊張をほぐして場を温めることができるので、いきなりプレゼンを行うよりも良い雰囲気が始めることができます。プレゼンの後は各自の本に対して質問をしたり、感想を述べたり、それに関する雑談などを行うことで、その本の魅力をメンバーで共有します。



第3回目では、テーマを「自分の紹介したいジャンルのおすすめ本」、小企画を「簡単な推理ゲーム」で行いました。小企画では短時間で解ける問題をいくつか抜粋して、メンバーで協力して挑戦しました。互いに意見を交わすうちに、程よく緊張も取れてとても良い雰囲気を作り出すことができました。その後のプレゼンでは自分の好きなジャンルから選んできた本だけあって、どの本の紹介でも各自が情熱的におすすめポイントを紹介しあい、大いに盛り上がりました。そのためプレゼン後の雑談では互いに紹介された本を読んでみたいという感想を多数聞くことができました。

読書会は、話したいことをとても気軽に話することができる場になっています。今後もより多くの人が参加して楽しく活動ができるようにしていきたいです。

### 絵本の読み聞かせ

表現文化学科 吉田 彩香

絵本の読み聞かせは、就実子ども園で2018年11月20日は3歳児、12月10日は4歳児、14日は5歳児を対象に行いました。この企画には図書館サポーター8名が参加しました。読み聞かせの内容は、最初に軽く子どもたちへ自己紹介をし、1冊読む前に絵本の内容にあった質問や問いかけをしながら、それぞれ子どもたちの年齢にあった紙芝居2冊と大型絵本1冊を読むという内容でした。

最初の導入として、絵本の内容に関する質問をすると、子どもたちは次々と元気よく答え続けてくれ、また、紙芝居の『かさじぞう』や大型絵本の『ぐりとぐらのおきゃくさま』では、「知ってる～!」「読んだことある～」と食いついてくれました。中には「くれよんさんのけんか」など、少し長めのお話もありましたが、静かに集中して聞いてくれ、大型のしかけ絵本では、ページをめくるごとに声を出し、指をさして反応してくれました。

今回参加したメンバーは、ほとんどが1、2年生で、読み聞かせをするのは初めてでした。そのため皆緊張していましたが、先輩方が前回の企画で学んだ経験を活かし、各自練習を重ねたため、本番では落ち着いて読み聞かせをすることができました。子ども園の先生からも「良かったよ」と褒めていただき、今回の絵本の読み聞かせは大成功でした。次回はさらにいい読み聞かせができるように、今後も活動したいと思えます。





## 卒業する図書館サポーターからのエール

本学図書館が学生協働を始めて丸4年が経ちます。学生協働とは、図書館業務の一端を、職員とともに利用者でもある学生が担う活動と定義されています。当初手探り状態でスタートしたこの事業は、図書館サポーターさんたちの力によって、今日まで継続することができています。学生さんのモチベーションを維持することは、時に難しく、行き詰ったこともしばしばあります。しかし、学生さんからもらうエネルギーは、いつも私たち図書館職員を励まし、奮い立たせてくれます。



### 「在学生に向けて」

僕は二年生くらいの頃から図書館サポーターに所属していました。入った理由には、高校生の時に入っていた図書委員のような活動をもう一度したかったことと、入学から多く利用していた図書館に職員方と一緒に関わっていきたくて参加しました。卒業が近づいた現在まで多くの活動に携わり、その理由となっていた二つに満足することができたと思っています。

色々な活動に参加しましたが、中でも思い出になっているのは「大学図書館学生協働交流シンポジウム」です。このシンポジウムには他県の図書館サポーターも集まり、参加者全員で図書館活動について話し合いました。また、他県の図書館サポーターの活動の発表を聞き、自分たちの活動の参考とすることができました。そしてシンポジウムに参加した結果、日本全国には図書館の未来を考える人々が僕たちと同じように日々活動していることを、実際に関わったことで知ることができたと思います。イベント終了後にモチベーションが上がったのも、このシンポジウムに参加したおかげでした。

僕は図書館サポーターの活動を通して職員方と多く関わり、多くの時間を就実大学図書館で過ごしました。これまで様々な図書館を利用しましたが、一番愛着があり好きな図書館は就実大学図書館です。同じような思いを持つ人が増えてくれたら僕は嬉しいです。

(表現文化学科 小野 太地)



私が図書館サポーターとして頑張ったことは、新年度の際に新一年生を対象として行われる図書館説明会です。図書館での本の借り方や電子機器の使い方、図書館内の案内等を新一年生に教えることが楽しかったです。

(教育心理学科 遠藤 理子)



「就実こども園での読み聞かせでは、絵本や紙芝居を選ぶのが難しかったですが、子どもたちが喜んでくれて、こちらも嬉しい気持ちになりました。既にサポーターの方もこれから入る方も楽しみながら頑張ってください！」

(初等教育学科 江本 茉奈佳)



私は、図書館ゲームを通じて図書館サポーターになった為、図書館ゲームが一番の思い出です。その図書館ゲームを今後、もし可能であれば私の後に自由企画に図書館ゲームをあげてくださる方がいらっやるといいなと感じています。そして、図書館ゲームがこれからも続いて多くの方に楽しんでもらえたらと思っています。

最後に途中から入り、緊張していた私に親切にしてくださいありがとうございました。

(表現文化学科 板谷 望美)

## 卒業する図書館サポーターからのエール



スタート時から手伝ってくれた人、リーダーで頑張ってくれた人、個性豊かな面々が、ここで卒業します。彼らが図書館のサービスについて考え、利用者に関われた図書館、成長する図書館の理念を次の世代に繋ぐため、エールを贈ってくれました。



図書館サポーターになって、様々な体験ができました。その中でも特に印象に残っているのが「図書館ゲーム」です。当初は「図書館を知ってほしい」という趣旨で始まった企画ですが、今では、毎年有志が集まってゲームを一から作っています。2018年には3回目を実施され、たくさんの人が図書館を訪れてくれました。私は1回目から図書館ゲームに関わっているのですが、謎やストーリーを考えたり、ゲームの小道具を作ったりと、とても楽しい時間を過ごしました。私は3月に卒業するので、もう図書館サポーターとしてゲームに関わることはできませんが、これから先も、毎年図書館ゲームが開催されていくことを願っています。

(表現文化学科 大島 佳奈美)



私が図書館サポーターとして行った活動で1番印象に残っていることは図書館での脱出ゲームです。今年も行われた脱出ゲームですが、私は3年前に携わっていました。

就実図書館の脱出ゲームは3年前の私達が最初に始めたのですが、やはり最初という事もあり様々なことで苦労しましたが、同じ図書館サポーターの友人達や図書館司書の方々、最初に脱出ゲームを提案して下さった中西先生と協力し、脱出ゲームが成功したことはとても誇らしく思います。

(初等教育学科 竹田 成希)



私は2年間という短い期間でしたが、図書館サポーターの活動の中で絵本の読み聞かせや図書館ゲームなどいろいろな経験がすることができました。サポーターの一員になってよかったと心から思っています。本当にありがとうございました。

(生活実践科学科 西山 桃佳)



図書館サポーターとして活動して、私が一番心に残っていることは新入生オリエンテーションのお手伝いをさせていただいたことです。

最初は初めての事で、どうすればいいのだろうと不安で戸惑っていましたが、図書館の方々が私たちと一緒にどうするかを考え、一緒に頑張りましたよと言ってくださり、とても安心したことを今でも覚えています。同じ図書館サポーターの人たちとも協力し合って、オリエンテーション本番に向けて話をし、リハーサルなども行い準備を進めました。

当日の私の役割は、新入生たちの誘導と入場口の説明、スタンプラリーの答えを確認し、わからなければヒントを出して確認のスタンプを押し、補助する役でした。

はじめは、ちゃんと教えることができるだろうか、ヒントをわかりやすく出せるだろうか、失敗したらどうしようと、とても緊張していましたが、前日のリハーサルや周りの人たちの協力のおかげで、大きな失敗もなくやり遂げることができました。

全て終わった後にも、これからどこをどうすればよりわかりやすくなるのか、うまくいわず失敗したところはどうすれば良くなるのか、次にまた行う時のための反省会も行われました。

私は忙しいこともあり、あまり多くの活動に参加することはできませんでしたが、他の人達と協力し合い、図書館の方々と一緒にひとつの物をつくりあげていく活動に参加することができ、本当に良い体験ができたと思います。

(総合歴史学科 岡本 郁美)



## ブックハンティング体験記

総合歴史学科 妹尾 和浩



私は、3年次の夏に、ブックハンティングに参加させていただきました。図書館に置いていない書籍を自ら選書して図書館に置いてもらえると思い、面白そうなイベントだなと思い、是非一度、参加してみたいと思っていました。

私は、丸善岡山シンフォニービル店さんにお邪魔してたくさんの書籍の中から1万円以内で選書をしました。初めは、「1万円分もの本を選べられるのかな」と、思っていたのですが、選書しているうちに楽しくなって「あの本もいいな」、「この本もいいな」という感じで気付けば予算が足りないくらいでした。選書を行う時間もたくさんあってじっくりと選ぶことができ、充実感のある選書ができてよかったです。私は主に卒業論文制作に向けての書籍を選び、お目当ての本が見つかることができました。このような感じに、自由にじっくりと納得のいくまで書籍を選べることが、選書時の一番の魅力ではないかと思えます。

選書後は自分が選んだ書籍のPOPを制作しました。私はブックハンティングに夏休み前に参加していたので、長い夏休みを利用してじっくりと本を読みPOPを制作できました。POP制作自体が私にとっては、初体験だったのでどのように作ればその本の魅力を最も効率よく伝えられるか、試行錯誤をしながら制作したのを鮮明に覚えています。図書館を訪れた際、自分が選書した本が貸し出されていたとき、POPを一所懸命に制作してよかったなという思いと、その本を選んだ甲斐があったなという嬉しい気持ちになりました。これは選書をしたからこそ味わえる特権だなと思えます。

私は、ブックハンティングを通して、選書は自分が満足するだけではなく、その本を手にとって読んでくださった読者の方も満足させるものだと思います。私はこれから色々と忙しくなりますが、時間があれば是非もう一度、参加させていただきたいと思っています。

## 第5回 ブックハンティング報告

『ブックハンティング』を学生協働の一環として始めてから5年が経ちました。この行事も定例となりましたが、入試日程の変更から2018年度は夏のみで開催となりました。

今後は、ブックハンティングのやり方を見直していきたいと考えています。

2018年度ブックハンティングでは、117冊の図書を学生が選書しました。ホームページに一覧表として掲載していますので、ご覧ください。

2019年度も夏開催します。本が好きな人もそうでない人も、選書する楽しさ、紹介する醍醐味を体験してみませんか。参加者募集中です。

### ブックハンティングとは？

書店で好きな本を選べるイベントです。選書額の範囲なら何冊でも選ぶことができ、選んだ本は図書館の書架に並び、優先的に貸出ができます。これは、学生協働(図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動)の一環で、学生の主体的な学びへのきっかけとなることを期待しています。

### ブックハンティングの流れ

【学生】書店にて選書→【図書館】重複等をチェックして本を購入→【図書館】受入・目録・分類等登録作業→【学生】POPを作成→貸出開始・新着図書コーナーへ一定期間展示



【1回目】実施日：6月23日(土)  
場 所：丸善岡山シンフォニービル店  
参加者：学生10名+教職員2名

【2回目】実施日：6月30日(土)  
場 所：紀伊屋クレド岡山店  
参加者：学生9名+教職員2名

清水建二・すずきひろし著  
本間昭文イラスト  
『英単語の語源図鑑』

(かんき出版)



先日、東京に行った時、この本の電車広告をたくさん目にし、とても興味を持ったので、書店で購入してみました。より少ない時間でより多くの単語を身につけることができる。ネイティブレベルに匹敵する語彙数が、語源学習によって効果的に手に入れることが可能になる。語源で学ぶ3つの効果①「関連づけて」覚える方法②「似ている単語」の意味の違いを知る③「イメージ」で記憶に強く定着するなどの学習方法をイラスト化したとても楽しい一冊だと思います。興味を持った方はぜひ読んでみてください。

(実践英語学科 藤木みゆ)

池上英洋、荒井咲紀

『美少女美術史一人々を  
感わせる究極の美一』

(筑摩書房)



この本は、幼い少女から成人を過ぎた女性までの「美少女」たちが描かれた約200点もの西洋絵画を堪能できる一冊です。単に顔立ちの良い少女を「美少女」と定義せず、「少女らしさ」や「子どもらしさ」を重視した作品を厳選して紹介しています。

ラファエロやピカソなどの有名な画家の作品はもちろんのこと、小説の挿絵、神話を主題とした絵画を例に取り上げ、美少女画の歴史や西洋における「子ども」の認識が変化した歴史も学ぶことができます。実際に美術館に足を運んでいるような気分をこの本を通して感じてください。

(総合歴史学科 松尾萌江)

若林正恭

『社会人大学人見知り学部卒業見込』

(KADOKAWA)



この本は、雑誌「ダヴィンチ」で連載されていたオードリー若林さんのエッセイを書籍化したものです。

たとえば、理由は分からないけれどなんか不安で憂鬱な人、ネガティブな人、自分の性格を変えたいと思っ

ている人、日常を退屈に感じている人が読むと、今の自分に必要な言葉を見つかることができます。

また、本書未収録作品が追加された完全版の文庫や、昨年出版された「ナナメの夕暮れ」、第3回斎藤茂太賞受賞「表参道のセレブ犬とカバーニヤ要塞の野良犬」もおすすめてです。

(生活実践科学科 村田亜海)

※図書館所蔵の本を書影に採用しました。

瀬尾まいこ『春、戻る』 (集英社文庫)



瀬尾まいこは、日常の何気ないことを物語りにするのが得意な作家である。「ハートフルストーリー」は展開が少なく、興味があまり湧かないと感じてしまう人にこの本はおすすめてである。なぜならば、主人公の兄が「年

下」だからだ。

物語は、結婚を控えた主人公(さくら)の前に、兄を名乗る青年が突然現れるところから始まる。さくらにとって、見ず知らずの彼は、どう見ても年下。でも彼は、さくらのことをよく知っている…。最初は戸惑うが、どこか憎めない“おにいさん”は、知らず知らずのうちにさくらの日常へ溶け込んでいく。

私と彼は以前に会ったことがある？ 自らの記憶を辿るうち、いつしか封印した過去が呼び起こされていく。

不思議で暖かく、春らしい作品です。

(表現文化学科 小松美月)

東野圭吾『ラプラスの魔女』（角川文庫）



この本の原作者は東野圭吾さんで、作家デビュー30周年目に出来た作品です。この作品は映画化もされました。

物語は一見不可能と思われる、硫化水素を使った連続殺人事件が起こり、その事件に

様々な人が絡んでいくサスペンスミステリーです。

不思議な力を持った少年と少女。どうしてこのような力をもつようになったのか。家族との関係は。そして、事件の調査を依頼された大学教授。主な登場人物の数人の視点から物語が進んでいくので、とても面白いです。読み終わった後に、こんな力あったらいいなと思うかもしれません。

（薬学科 神高未奈）

渡邊義浩監修

『図説 呉から明かされた

もう一つの三国志』（青春出版）



この本の魅力は、ほとんどの『三国志』についての概説書で脇役的な扱いである「呉」を中心として、三国時代の興亡が書かれているところです。地図や家系図も豊富に載せられており、とても読みやすい本となっています。また、巻末には、

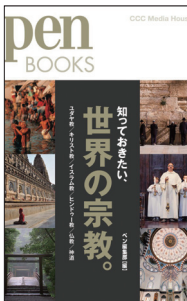
三国時代の年表が記載されており、『三国志』について詳しくない人でも、年表を読めば、全体の流れを把握することができます。もともと私自身が、魏・蜀に比べ、「呉」については関心が薄かったのですが、この本を読んだことで、「呉」についての見方が変わりました。この本を読むことで、三国志に詳しい人も、あまり詳しくない人も、新たな「三国志」の世界を発見できると思います。ぜひ読んでみてください。

（総合歴史学科 忠山直人）

ペン編集部編

『知っておきたい、世界の宗教。』

（CCCメディアハウス）



The cosmetic product has a halal certification? インドネシアの学生と観光していた時に、日本の化粧品にハラルマークがついているか質問された。私は、ハラルマークは食品のみに発行されるものだと思っていた。しかしながら、実

際は、食品以外にもイスラム教が禁じているものが存在した。こうした間違った認識が、他の宗教でもあるのではないかと考えた。

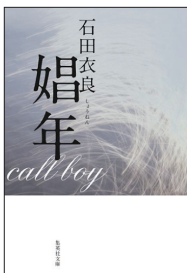
そこで出会ったのが、『知っておきたい、世界の宗教。』だ。この本では、ユダヤ教やキリスト教をはじめとした6つの宗教に関して、宗教比較や教徒の生活に着目して簡潔に宗教ごとの特性が書かれている。。また、宗教と歴史の関係を踏まえ、トランプ首相のエルサレム宣言やISISの過激なイデオロギーについても解説している。

グローバル化に伴う多文化共存の社会で、国際人に必要な宗教理解ができる1冊である。

（経営学科 丸山悠那）

石田衣良『娼年』

（集英社文庫）



「欲望の秘密はその人の傷ついているところや弱いところにひっそりと息づいている。」2018年映画化(R18指定)でも話題になった「娼年シリーズ」を紹介しします。

恋愛にも大学生活にも退屈し、虚ろな毎日を過ごしていたリョウ、二十歳。そんな時、会員制ボーイズクラブオーナー御堂静香からスカウトされ「娼夫」として働き始める。やがてリョウは、様々な女性の中に潜む、欲望の不思議に魅せられていく…。

この小説は sex の話題が禁忌となり、草食系男子の謳われる世の中への鮮烈なアンチテーゼであり、「性」と「生」が清澄に描きだされている長編恋愛小説です。

（初等教育学科 加藤祥大）



# 図書館 HP がリニューアルしました 図書館 HP を利用しよう! ④ HP 活用編

“図書館の HP が変わった?”

“OPAC の画面って2つあるの?”

2018年5月に図書館 HP がリニューアル!  
自由な使い方が出来るようになりました  
画像が増えた図書館 HP を使いこなしましょう



スマートフォンからも  
見やすくなったよ!

図書館のアドレス <https://www.shujitsu.ac.jp/toshokan/>

- ② OPAC  
(就実図書館の蔵書検索)
- ③ My Library  
(貸出中の予約もできます)
- ④ 開館カレンダー  
(就実図書館の開館日・開館時間)

① MENU

- トピックス/イベント
- 利用について
- 図書館紹介
- 資料を使う (eBook, OJなど)
- 情報を調べる (CiNii Booksなど)
- コレクション
- 年度開館カレンダー

⑤ Topics  
(スペシャル講座のお知らせなどもしています)

## 就実大学・就実短期大学図書館蔵書検索(OPAC)

OPAC  
その1  
簡易検索

OPAC その2  
詳細検索

★OPACは2種類★  
お好みで使い分けてください

続きあり▶

今年度貸出回数  
第1位の本でした！  
(40回)



『エントリーシート完全突破塾 2018年度版』岡茂信著(毎日コミュニケーションズ)を  
OPAC(簡易検索)で探してみよう!

①書名やキーワードなどを  
入力して、**検索**

②一覧が表示されたら、**書名**  
の上で**クリック**しましょう

③読みたい本が表示されました！  
所在の上で**クリック**しましょう。館内地図が  
表示されます。請求記号をメモして書棚にGO！  
(貸出中の場合は、貸出中と表示されるので、  
予約してね)

資料を使う

就実学術リポジトリ  
(大学内で電子化された紀要  
を読むことができます)

電子ジャーナル  
(契約雑誌を学内で読むこと  
ができます)

e-Book  
(契約した本を読  
むことができます)

新着図書情報

情報を調べる



分からないこと・困った  
ことはカウンターで  
聞いてね

学術情報ポータル (データベースリンク集)

就実の図書館で調べきれないときのお役立てグッズです。

- 蔵書検索 (図書や雑誌の所在を調べたい) ・ CiNii Books、岡山県立図書館 etc  
 文献検索 (論文や記事を探したい) ・ CiNii Articles、マガジンプラス、ざっさくプラス、  
 ジャパンナレッジ etc  
 新聞記事 ・ 聞蔵、山陽新聞記事データベース、日経バリューサーチ etc

文庫本を探して見よう! ④ ~岩波文庫編~



「『岩波文庫』ってどこにありますか？」  
という質問をよく聞きます。

★文庫を探すポイント★

OPACで検索 → 所在に **2F文庫** と表示されたら  
 → 『岩波文庫〇(カタカナ)』に表示された  
**カタカナ** に注目!!  
 本の背に下の図のようなラベルが貼ってあります。  
 \* 文庫架にはカタカナの50音順に並んでいます



本の背  
拡大図



雨月物語 岩波文庫 ウ

ウゲツモノガタリ  
上田秋成作; 長島弘明校注  
東京: 岩波書店, 2018.2

図書

巻号情報  
岩波文庫 ウ  
貸山中

No.	予約人数	前年	所在	請求記号	資料ID
1	0		2F文庫	080 I ウ	900242095

予約

詳細情報  
 刊年: 2018  
 形態: 258p; 挿図; 15cm  
 統一書名: 雨月物語(上田秋成: KOTEN:13218)  
 シリーズ名: 岩波文庫; 黄(30)-220-3

雨月物語

ウゲツモノガタリ  
上田秋成作; 長島弘明校注  
東京: 岩波書店, 2018.2  
Amazon.co.jpで詳細を見る

ブックマーク

●所蔵:

巻号	予約人数	所在	請求記号	資料ID	資料種別
1 岩波文庫ウ	0	2F文庫	080 I ウ	900242095	文庫本

全て選択 選択解除 巻号ブックマーク

- 刊年: 2018
- 形態: 258p; 挿図; 15cm
- 統一書名: 雨月物語(上田秋成: KOTEN:13218)
- シリーズ名: 岩波文庫; 黄(30)-220-3

必ず『文庫名 書名 著者名 (請求記号 080/I/カタカナ)』をメモしましょう。文庫コーナーの配置地図をOPACコーナーに貼っているのので、確認しましょう。

シリーズ名を確認してね!



図書館とコラボしませんか

図書館のスペースを使って、作品の展示やイベントを開催しませんか？  
例えば、絵や写真を飾ったり、演奏会やビブリオバトル、絵本の読み聞かせを行ったり、利用者参加型のゲームをしたり・・・  
アイデアのある方は、お気軽に図書館職員へお声かけください。



弦楽アンサンブル部図書館演奏会

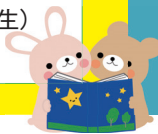
写真部図書館写真展



図書館では年に数回スペシャル講座を開催しています。  
先生に専門分野をわかりやすく解説していただいたり、データベースの使い方を説明したり、学生さんからリクエストのあったテーマについて講座を企画したりしています。  
お話を聞きたい先生や興味のある分野があったら、図書館職員へご相談ください。  
2019年度も新しい講座を考えています。皆さんのお待ちしています。

**\*2018年度開催講座\***

- ・データベース「ざっさくプラス」講習会
- ・国際ジャーナル論文執筆セミナー
- ・「絵本翻訳の世界」(講師：武部好子先生)
- ・「時間の種子、物語の種子」(講師：松本潤一郎先生)
- ・上映会「カルロス・ゴーン：日産自動車」



図書館スペシャル講座へ  
参加しよう！

共翔 第26号

平成31年2月20日発行

編集・発行  
就実大学・就実短期大学図書館

〒703-8258 岡山市中区西川原1-5-22 TEL(086)271-8134 FAX(086)271-8275  
ホームページ <https://www.shujitsu.ac.jp/toshokan/>

※館報の題字は押谷善一郎名誉教授の書によるものです。